

30E-pm01

メディシナルフラワー研究：茶花 (*Camellia sinensis* 花部) の抗肥満作用と摂食抑制作用

松田 久司¹, 濱尾 誠¹, 中村 誠宏¹, 吉川 雅之¹ (¹京都薬大)

【目的】本研究室では、日本および中国産茶花抽出エキスから floratheasaponin 類や chakasaponin 類などの化学構造を明らかにするとともに、胃粘膜保護、脂質および糖質吸収抑制、リパーゼ阻害、胃排出能抑制、小腸運動亢進、抗アレルギーおよび抗酸化作用などの作用を有することを報告してきた。今回、高脂肪食飼育マウスに、福建省産茶花エキスを投与することにより体重および内臓脂肪量の増加抑制が認められたため、作用成分およびその作用機序について検討を行った。

【方法・結果】 ddY 系雄性マウスに高脂肪食 (Reserch Diet 社 D12451) を 2 週間摂取させ、福建省産茶花エキス (125-500 mg/kg/d) を投与した場合の体重および内臓脂肪量を比較測定した。その結果、エキス投与群において体重および内臓脂肪量の顕著な増加抑制が認められた。また、この反復投与期間中に、自発行動の低下の明らかな毒性が認められないにもかかわらず、摂餌量の減少が認められた。普通食においても、エキスおよび配糖体分画に摂餌量の減少が認められ、主要なサポニン成分である chakasaponin I, II, および III に抑制活性を認めた。この抑制活性は、迷走神経遮断により減弱したことから、迷走神経求心路の関与が示唆された。さらにセロトニンおよび GLP-1 等、食欲抑制に関係する伝達物質への影響についても検討を行った。

